

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野

ドミトリー・メドベージェフ『ロシアよ、進め！』

メドベージェフ大統領は9月10日、Gazeta.ruのウェブサイト上に『ロシアよ、進め！』（“Россия, вперёд!”）と題する論文を公表した。

内容は従来から進めている近代化、汚職撲滅、イノベーション的経済発展、政治的民主化、外交政策等のさらなる前進を国民に対して訴えるものだが、前段部分でこれまでのロシアの改革の進捗に否定的な見方をしていることから、90年代から進められてきたプーチン現首相に対する挑戦という意味合いがあるのではないかと報道するメディアもある。特に9月11日及び15日に行われた「Valdai Club」¹の席上、メドベージェフ大統領、プーチン首相がともに2012年の大統領選出馬への意欲をほのめかしたことからそのような捉え方がなされた。

この論文は約4,000字からなる長大なもので、現在のロシアの抱える問題点に関するメドベージェフ大統領の認識と今後の国家的優先課題の方向性について包括的に書かれており、当然の事ながらメドベージェフのブレインといわれる現代発展研究所（Института современного развития）の考え方が反映されているものと思われるので、以下その内容を見ていく。

『ロシアよ、進め！』（“Россия, вперёд!”）（筆者作成）

【項目】

1. イントローいかにしてロシアの未来をつくりあげるべきか
2. 現状評価—ロシアの問題点
3. 経済的近代化のベクトル—イノベーション的発展
4. 技術的進歩と政治的民主化
5. 司法制度改革
6. 社会的側面—福祉国家建設
7. 国際社会におけるロシア
8. 改革への協力を！

¹ ロシアのシンクタンク外交防衛政策評議会（カラガーノフ議長）とRIAノーボスチ通信者の共催で2004年から毎年開催されているロシア政府首脳と各国のロシア専門家との懇談会。2009年は9月11日と15日にYakutiaにおいて開催され、プーチン首相、メドベージェフ大統領がそれぞれ出席した。

【解説】

論文全体のベースには、過去ロシア及びロシア国民は歴史上偉大な国家、国民であったという大国意識を持った歴史認識がある。だが、社会主義政権から旧ソビエト崩壊以降の近代化は極めて不十分なもので、ロシアは旧態依然たる資源輸出に依存する後進国に止まっており、大国としての地位の復活のためにはイノベーション的経済発展、政治的民主化、法の支配の強化、汚職撲滅といった課題を解決し、国家の近代化を達成する以外にロシアの未来は無いと強い調子で訴えている。

これらの課題に取り組むという方針は、メドベージェフ大統領の施政方針演説以来様々な機会において表明されて来たものであるが、この論文ではやや扇動的文体で書かれている印象があり、それだけ大統領就任以来の改革が思うように進んでいない現状が実体として存在するのではないかと思われる。特に改革を阻害する要因としてロシア政府機関内に蔓延る官僚主義や汚職に対し強い非難の言葉が浴びせられ、撲滅への強い決意が繰り返し表明されており、「抵抗勢力」の根強い力を想像させる。

また、経済のイノベーション的発展についても、従来から国家優先課題の1つであったが、今年5月に行われた経済担当閣僚会議においてメドベージェフ大統領は「はっきり言ってほとんどのものが紙の上にあるだけだ！」と発言してプログラムの遅れに対する危機感を露にするとともに、その問題に対処するために大統領直轄の「経済近代化と技術的発展に関する委員会」を設置した。

この論文が、メディアが勘繰るような政治的意図を持って書かれたものかどうかは不明だが、改めて国民に対して近代化と民主化を進める自らの路線への支持を訴えつつ抵抗勢力に対する闘争を宣言するとともに、さらに繰り返しロシアの偉大な歴史について語ることで近代化についてロシア人に誇りを持たせ、「今こそ近代化を達成することで偉大なロシアを復活させよう」と呼びかけ団結を訴えようとするものであろう。

【抄訳】(章題は筆者作成)

1. イントローいかにしてロシアの未来を作り上げるべきか

数ヵ月後にはロシアは21世紀の新たな10年を迎える。このような節目は実際的な意味を持つというよりシンボリックなものである。だが、我々が過去を振り返り、現状を評価し、未来を考える機会となるものだ。将来、我々一人ひとり、子供達、そして我が国に何が待っているのか考えてみよう。

先ず初めに簡単だが最も重要な問題を考えよう。その問題とは我々は将来にわたって原料に依存した原始的な経済とこの国に固有の汚職とともに生きていくのかということだ。そして問題解決のために政府や外国、ドグマ、自分以外の何者にでも頼りきろうとする慢性的習慣も生き残

っていくのだろうか。ロシアがこれらの重荷から解放されることなしに未来への道を見出すことができるのだろうか。

来年我々は第二次世界大戦戦勝 65 周年を迎える。この記念日は、我々の現在は我々が今日享受している自由を勝ち取った英雄達の未来であったということを思い起こさせる。暴虐で強力な敵を打ち破った我が国民は、今日汚職と後進性を克服しなくてはならない。我が国を近代的で存続可能な国にするために。

2. 現状評価 — ロシアの問題点

各世代のロシア国民と同じく、我々も巨大な遺産を受け継いでいる。その遺産は祖先の偉大な闘争と忍従によって勝ち取られたものである。それは時として多大な犠牲を伴った。我々は広大な領土、豊富な天然資源、強固な潜在的工業力、そして科学、技術、教育、芸術における輝かしい業績、陸海軍及び核兵器の栄光に満ちた歴史を持っている。これらの力を使ってロシアは歴史上重要な、そしてある時期においては決定的な役割を果たしてきた。

我々はこの遺産をどのように使いさらに拡大していくべきなのか。自分の子供や孫たちのためにロシアの未来はどうなるのだろうか。国際的な労働市場や国際関係システム、国際文化におけるロシアの地位、そして我々の子孫、後継者、将来の世代の地位はどうなるのだろうか。今日そして将来にわたってロシアの生活水準を着実に向上させるために我々は何をしなくてはならないのか。我々の社会がより豊かで自由で人間的で魅力的になるためにはどうすればいいのか。ロシア社会はよりよい教育、やりがいのある仕事、十分な収入、個人的生活と創造的行為を両立できる環境を望む人々に与えることができるのだろうか。

私はこれらの問いに対する答えを持っている。だがその前に現状を評価したい。

世界経済危機によって、ロシアが最高の国から程遠いことが明らかになった。20 年間の混沌とした変換の時期を経てもなおロシアは原料依存から脱却できていない。今のロシア経済は未だソビエト体制の欠陥を色濃く反映しており、個人のニーズを無視している。僅かの例外を除き国内企業は必要なものを生産せず、国民が求める技術を開発していない。ロシア国内で生産されたほとんどの完成品の国際競争力は恐ろしいほど低い。

このことが危機においてロシアの生産高が他の国々大きく落ち込んだ原因であり、株価暴落についても同様である。これらのことは我々がこれまで成すべきことを行ってこなかったことの証明であり、やってきたことも全く正しくなかったのだ。

ロシア企業のエネルギー効率と生産性は恥ずべき程低いが、それ自体が最悪というわけではない。最悪の問題は経営者、役員、技術長、役人がそのことを余り心配していないように見えるということだ。

国際経済におけるロシアの影響力は、はっきり言って我々が望むよりはるかに小さい。もちろんグローバル化の時代において一国の影響力は無限であることはない。それはむしろ有害なことである。しかし、我が国にはロシアの歴史的な役割に見合う大きな機会がなくてはならない。

全体としては民主的な組織が設立され安定してきたものの、質は理想からは程遠い。市民社会は脆弱で、自立的機関、自己統治の水準は極めて低い。

我が国の人口は毎年さらに減少している。アルコール、喫煙、交通事故、医療技術の欠如、環境問題が幾百万もの人の命を奪っている。出生率の上昇は人口減少を埋め合わせる水準に達していない。

我々は国の総力をあげてこれらの問題と戦ってきた。しかし多くの深刻な問題が残されている。テロリストによるロシアへの攻撃は続いている。北コーカサスの共和国の国民は平和というものを知らない。兵士や法執行官、政府機関・地方政府のスタッフ、一般市民も命を落としている。もちろんこれは国際的犯罪組織によって行われているものだが、南ロシアの社会経済開発が進んでいけば事態はこれほど危機的にはならなかっただろうということを直視しなくてはならない。

以上まとめると非効率な経済、ソビエト的社会領域、脆弱な民主主義、ネガティブな人口動態、不安定なコーカサスがロシア程の国にとっても重大な重荷となっている。

もちろん問題を誇張する必要は無い。これまでも多くの対策が取られ、今日もロシアは機能している。10年前のような半分麻痺した国家ではない。すべての社会システムが機能している。しかしまだ十分ではない。結局のところそれらのシステムは現状のモデルを広げただけで、発展性が無い。自己変革能力がないので悪しき旧習が残っている。

石油や天然ガスのマーケットに頼るだけでは国の指導者の資格は無い。我々は問題の複雑さを理解し評価しなくてはならない。行動するためには問題点を率直に議論しなくてはならない。資源価格相場がロシアの運命を決めるのではない。我々の、我々自身・歴史・未来に対するアイデアがロシアの運命を決めるのだ。我々の知性、率直な自己評価、強さ、尊厳そして進取の気風が決定的要素となる。

私は技術的發展、政治的近代化、法の支配の強化、汚職撲滅といった優先課題を遂行することのみロシアの未来があると考えている。我々の未来のためには社会の創造的なエネルギーを抑制し進歩を阻害する根深い社会的疾病から我が国を解放しなくてはならない。それらの疾病とは以下のようなものだ。

1. 何世紀にもわたる経済的後進性及び原料輸出と完成品との交換に依存する習慣。ロシア最

後の皇帝であるピョートル大帝とボルシェビキはイノベーティブなシステムの要素を作り上げ、それは失敗だったというわけではない。しかし成功の代償は余りに大きかった。極度の努力、全体主義国家機構のあらゆる手段を用いることによって成し遂げられた。

2. 汚職の歴史が有史以来ロシアを弱体化させてきた。今日までこの腐食は経済及び社会的政策遂行のさまざまな局面における政府の過度な干渉を原因とするものであった。これは政府だけの問題ではなく企業も過ちを犯してきた。多くの企業家が才能ある発明家を発掘し、ユニークな技術を開発し、斬新な製品を作って販売することよりも、財産を不正な再配分の流れをコントロールするために役人に賄賂を贈ることばかり考えていた。
3. あらゆる問題は政府あるいは当事者ではなく他の誰かによって解決されるべきだといった家父的な考え方が我が国の社会に蔓延している。ゼロからキャリアを開始するとか、一步一步成功へ向けて階段を上るといったことはロシア国民の習慣になっていない。そのことがイニシアティブや新しいアイデアの欠如、大きな問題が未解決のまま放置されること、批判を含む国民間の議論のレベルの低さに反映されている。受容や支持は常に沈黙をもって表明され、その一方で反対はしばしば感情的かつ痛烈な批判が行われるが、それは浅薄で無責任なものばかりだ。ロシアがこのような現象に直面しているのは今世紀が最初ではない。

ロシアはこの慢性的な社会病を完全に治すことはできないという人がいる。この伝統は根強く、歴史は繰り返すというのだ。だが、かつて農奴制と根強い非識字は克服できないと考えられていたが、我々は完全に克服したではないか。

伝統が大きな影響力を持つことは当然のことだ。しかし、伝統とてそれぞれの新しい時代に適合し変化してきたのだ。消えてしまった伝統もあり、役に立たなかったものもある。私は保存されることについて疑問の余地がない価値というものこそ伝統とみなすべきだと考えている。それは人種や宗教を超え平和を願う心、軍事的勇敢さ、己の義務への忠誠心、隣人への慈悲の念や親切心などだ。これに対し、賄賂、窃盗、知的及び精神的怠惰、酩酊といったものは我々の伝統を破壊する悪習である。我々はなんとしてもこれらを打破しなくてはならない。

もちろん今日のロシアが過去を繰り返すことはない。我々の時代は真に新しい。それは時間とともに前に進むからだけではなく、我が国と国民一人ひとりに限りないチャンスがあるという意味においてである。20年前、30年前には、いや100年から300年前においても、影も形も無かったチャンスである。

我が国の歴史における2つの最も偉大な近代化の遺産、すなわちピョートル大帝とソビエトによるものは、限度なき破壊と屈辱、そして幾百万の同胞の人命喪失を引き起こした。先人を評価するのは我々の仕事ではない。しかし、婉曲に表現しても当時人命保持は政府の優先課題ではなかったことを認めざるを得ない。不幸なことにそれは事実である。今日こそロシアが民主的に発

展することが可能であることを国民と世界に証明する歴史上初めてのチャンスなのだ。文明のより高い次の段階への伝統をつくりあげるチャンスでもある。それは非暴力的な方法で成し遂げなくてはならない。強制ではなく説得を通じて行わなくてはならない。抑圧ではなく個人の創造的潜在能力の発展を通じて達成しなくてはならない。脅迫ではなく利益によって、対立ではなく個人・社会・政府の利益を調和させることによって成し遂げなくてはならないのだ。

我々はまさに千載一遇の時代に生きている。今こそ新しく自由で繁栄する強いロシアを作り上げるチャンスなのだ。私は大統領としてこの機会を確固としたものとするために全力を尽くすつもりだ。

3. 経済的近代化のベクトル—イノベーション的発展

次の10年、ロシアは一次産品ではなく、知的資源、すなわち知価経済、知識創造、新技術やイノベティブな製品輸出を繁栄の基盤とする国家になるべきだ。

我が国の経済的近代化の5つのベクトルは以下のとおりである。

1. 我々は生産・輸送・エネルギー利用効率において最も進んだ国となる。国内及び国際市場で使用する新しい燃料を開発する。
2. 我々は我が国の核技術を維持し、質的に新たな水準に高める必要がある。
3. ロシアの専門家は情報技術を進歩させ、スーパーコンピューター等を活用しグローバルなデータネットワークの開発に強い影響力を行使しなくてはならない。
4. あらゆる種類の情報伝達のため、地上及び宇宙のインフラを開発する。我が国の衛星は全世界の観察を可能とし、総ての国の人々が通信、移動、研究及び農業・工業生産に従事することを助けることができるものとする。
5. ロシアはウィルス性、心臓血管系、神経系疾患及び癌治療のための医療器具、最新の診断機器及び薬品生産において先進的地位を占める。

これらハイテク領域における5つの戦略の成功を追求しつつ、我々は同時に最も重要な伝統的産業、何よりも農産業コンプレックスの発展にも注力していく。ロシア国民の3人に1人は地方に住んでいる。地方住民のための社会サービスの近代化、所得向上、労働条件・生活水準・居住環境の改善は常に我々の優先課題である。

無論ロシアには十分な軍備がある。我が国または同盟国を脅かそうとする者が現れることは無い。

これらの目標は実現可能である。達成は難しいが不可能ではない。我々はそれぞれの領域において着実に前進するための計画を既に策定している。技術的・科学的創造性の発揮を支援するために、若い科学者と発明家を支援する。中等及び高等教育によって有望産業において十分な数の専門家を育成する。大学は「ブレイクスルー・プロジェクト」の遂行に努力を集中する。立法者は生活のあらゆる領域におけるイノベーション精神の発揮を包括的に支援するあらゆる決定を行い、アイデア、発明、発見、新技術のためのマーケットを創造する。企業がイノベーティブな製品に対する需要を創造するための努力をする上においてはあらゆる支援を受けることができる。外国企業や研究機関はロシアにおいて研究・デザインセンターに最も好ましい条件を享受することができる。我々は世界中から最高の科学者と技術者を招聘する。最も大切なことは、若い世代に最も強い競争力は他にない知識、知的優越性、人々が必要とするものを創造する能力であるということを理解させることである。プーシキンが「広範囲の計画を創造的なアイデアで埋め尽くすには、より高度の勇気、すなわち発明・創造する勇気が必要だ。」と書いているように、発明家、開発者、研究者、教師、新しいテクノロジーを導入する企業家は、社会において最も尊敬される人々となり、社会はそれらの人々が創造的であるために必要とするあらゆるものを与える。

当然のことながら、イノベーティブな経済は一朝一夕にできるものではない。イノベーティブな経済は人間的価値を基盤とする文化の一部である。世界を変革し、生活水準の向上を保障し、個人を貧困・疾病・恐怖・不正から解放しようとするための我々の努力こそがベースとなる。改革を望む才能のある人々、新たなより良いものを創造することができる人々は他の惑星からやって来るのではない。我々の中に存在する。そのことは国際的知的競争の結果ロシアにおける発明が海外で特許を取得し、ロシアの専門家達が海外の大企業や大学にヘッドハントされているという事実によって証明されている。我々政府、社会、家庭はそれらの人々を見出し、育成・教育し、援助しなくてはならない。

4. 技術的進歩と政治的民主化

私は技術的進歩こそが国家の政治的優先課題であると考えている。それは科学技術の進歩が政治システムの進歩と密接不可分に結びついているからである。民主主義は古代ギリシャに発すると考えられているが、その当時完全な民主主義というものは存在しなかった。自由は選ばれた少数の者達だけのものだった。投票権と法の下での平等を保障する完全な民主主義、いわゆる人民の民主主義は比較的最近、80年から100年ほど前に現れたものだ。民主主義は生活必需品やサービスが大量生産される前には発生しなかった。西欧文明の技術的発展の水準向上によって初めて基本的な快適性、教育、ヘルスケア、情報への普遍的アクセスが可能となったのである。生活水準を高める発明一つ一つが我々の自由を高めたのだ。我が国経済がより知的で賢く効率的になればなるほど、国民の福祉、政治システムそして社会全体がより自由、公正で人間性に満ちたものとなるだろう。

現代我々が注力している情報技術が更に発展することによって、言論・集会の自由等の基本的

な政治的自由が実現するかつてない機会となるだろう。それによって汚職の温床を特定し撲滅することが可能となる。そして世界中の人々との意見や知見の交換が可能となる。社会はたとえ支配階級が望まなくとも、より開かれた透明性の高いものとなるだろう。

ロシアの政治システムは極めてオープンで柔軟性があるが内部的には非常に複雑である。それはダイナミックで活動的で透明性があり、多元的な社会構造にとって十分なものとなり、自由で堅実で批判的精神を持つ自信に満ちた国民の政治的文化に相応しいものとなるだろう。最も民主的な国家のように政治的闘争のリーダーは政権交代可能な議会政党である。政党や政党が形成する連合政権が連邦及び地方政府の執行権力を選出する（決してその逆ではない）。政党や政党の連合が大統領、地方政府・地方自治体の知事を任命する。彼らには文明化された政治的競争、有権者との責任と意味のある相互作用、党内競争、現実の先鋭な社会問題の解決における妥協の経験がある。彼らは社会、あらゆる国籍の市民、ロシアの領土の最も多様性に満ちた地域と人々を、十分な権限をもった政治的統一体に統合することができる。

政治システムはオープンな政治的連合体の自由な競争を通して革新を遂げ、進歩する。戦略的な外交問題、社会の安定、国家安全保障、憲法的秩序の形成、国家主権の保護、市民の権利と自由、財産権の保障、過激主義の拒否、市民社会及びあらゆる形態の自治組織、自治政府の支援といった事柄について政党間の合意が形成される。同様の合意はすべての近代民主主義において存在する。

今年、我々はそのような政治システムの構築に着手した。政党は連邦管区、地方自治体においてリーダーシップの地位を占める者を選ぶことができる。政党設立の要件が緩和された。国家院議員の候補者指名の要件も簡素化した。議会政党のメディアへの平等なアクセスを保障する法律も成立した。その他数多くの措置も採択された。

我々がその方向に向かって進む速度について誰もが満足している訳ではない。政治システムの改革を加速する必要性を説く者がいる。民主的な 90 年代に戻るべきだという見もある。しかし麻痺した国家に戻すことなどできるわけがない。恒久革命の支持者は失望するだろうが、我々は性急な改革は行わない。我々の歴史の中でも拙速で思慮の浅い政治改革は悲劇的な結果につながり、ロシアを崩壊の瀬戸際まで至らしめた。我々は抽象的理論のために社会の安定と国民の安全を危険に晒すことはできない。我々には高次の目的のためであっても安定した生活を犠牲にする権利はない。孔子は「小事に対して事を急げば、偉大な考えを破壊する」と語っているが、ロシアでは過去このことが余りにも幾度も繰り返されてきた。国民のための改革であって改革のために国民がいるのではない。このことは現状に完全に満足している者、変化を恐れ望まないものを落胆させることになるだろう。改革は進めるが、それは漸進的であり、しっかりと考えながら一步一步進めるべきものである。変化は着実に安定的に成し遂げられなくてはならない。

ロシアの民主主義は単なる外国のモデルのコピーではない。市民社会を海外からの補助金で買うことはできない。政治的文化は先進社会の政治的伝統に関する情報だけで形成されるものでは

ない。実効性のある法制度は輸入できない。最も頭のいい人でも自由とは何かを本だけから理解することはできない。もちろん我々は他国から民主的な政府を作るうえでの成功や失敗の経験を学ばなくてはならない。だが、誰も我々のために我々の人生を生きてくれる訳ではない。誰も我々を自由にし、成功させ、責任を取ってくれる訳でもない。我々が自由で自分達の手で成功したと言えるためには、我々自身が民主化の努力を積み重ねるしかない。

5. 司法制度改革

民主化は保護する必要がある。国民の基本的な人権と自由も同様である。特に専制政治、自由と正義の欠如から生じる汚職の類からは保護しなくてはならない。我々はそのような保護のためのメカニズムを開始したところである。その中心は司法制度である。我々は近代的で効率的な司法制度を作らなくてはならない。その司法制度は法律を遵守し、現代的法原則に従って機能するものでなくてはならない。我々は、私が残念ながら我が国の伝統であると繰り返し述べてきた法と正義に対する軽視と訣別しなくてはならない。新しい司法制度は単なる競争キャンペーン、あるいは制度がいかに腐敗しているかとか、司法制度を改正するよりも全く新しいものを作った方が簡単だなどといった瑣末な議論によって作り上げられるものではないし、判事全員を入れ替えられるわけではない。それは役人、警察官、諜報部員、公務員、ビジネスマンなどを取り替えてしまえないのと同じである。我々が必要としているのは法執行機関のための正常な労働条件であり、詐欺師を完全に排除することである。我々は法執行官に対し、権利と自由の保護と法律の領域において正義に基づき明白で実効性のある解決を図ることを教えなくてはならない。いかなる理由であっても法的決定に影響力を行使しようとする企みは阻止しなくてはならない。最終的には司法機関が公共の利益のために活動することと腐敗した官僚やビジネスマンの私利私欲のため活動することの意味の違いを理解しなくてはならない。我々は法の支配、法令順守、財産権等重要な権利の保護を含む他者の権利尊重の気風を醸成しなくてはならない。汚職の国を浄化するのは大衆の支持に支えられた裁判所の仕事である。これは困難だが可能なことである。だが、他の国々は成功しているではないか。

我々はロシアのコーカサス地方の人々が通常の生活を送ることができるようにするために全力を尽くす。我が国南部のための経済的・人道的プログラムはまもなく見直され、更新される予定である。我々はコーカサスに関する政府機関のトップのパフォーマンスを評価する明確な基準を設定し、その基準を先ず初めに工業生産、金融、社会発展、教育文化を担当する連邦政府及び地方政府の閣僚に適用される。同時に法執行機関はコーカサスの国々において狂信的思想と野蛮な習慣を持って人々に恐怖を与えテロを行う無法者達を排除する。

6. 社会的側面—福祉国家建設

ロシアの人口減少はなんとしても食い止めなくてはならない。我々は医療の質を高め、出生率を高め、道路や作業場における安全性を確保し、アルコール中毒の蔓延を防ぎ、健康的な文化及び大衆的スポーツを発展させなくてはならない。そのためには戦略的なアプローチとともにそれ

らのことを政府の日常的な任務としなくてはならない。

これらの効果の範囲がどのようになろうとも、究極的な目的はロシア人の生活水準を向上させるということのみである。住宅、雇用、医療、年金受給者・幼児・障害者の保護はあらゆるレベルの政府の義務である。

ロシアの政治家はしばしば、憲法上ロシアは福祉国家であると言っている。これは正しいが現代の福祉国家はソビエトの社会保障システムを膨らませたようなものではないこと、福祉手当は天から降ってくるのではないということを決して忘れてはならない。福祉国家は経済的インセンティブと社会福祉手当、倫理的・行動的基準等の中の複雑でバランスの取れたシステムであり、その生産性は我々一人一人の仕事の質と訓練の水準に決定的に依存するシステムである。

政府が社会に給付するものは何であれ社会が稼いだものである。収入以上の生活をすることは不道德であり、愚かで危険なことである。我々は経済システムをより稼ぐことができるよう効率の良いものにしていかなくてはならない。石油価格が上がる日を待つのではなく我々自身の手で稼ぎ出すのだ。

我々はあらゆる領域における社会サービス効率を改善する。特に退役軍人や年金受給者の物質的及び医療サポートに注力する。

7. 国際社会におけるロシア

ロシア民主主義の近代化と新しい経済の確立はポスト産業社会における知的資源を活用できるかにかかっていると私は考える。我々はそのことを固定観念なしに率直で実利的に行うべきである。西側の民主主義国家とロシアの関係の調和の問題は個人的な好みや政治集団の権限の問題ではない。我々の現在の国内の全体的技術的能力は生活水準を向上させるためには不十分である。我々にはヨーロッパ、アメリカ、アジアからの資金と技術が必要だ。その一方でそれらの国々はロシアが提供するビジネスチャンスが必要としている。我々は関係改善と我々の文化と経済に対する理解が深まることを期待する。

もちろん反対意見のないリーダーシップはありえない。つねに議論が行われ反対意見が存在する。しかし、後悔、傲慢、不信、特に敵対心はロシアと主要な民主国家との関係においてはあってはならない。

我々には、核不拡散や気候変動の防止といったすべての地球上の住民にとって影響を与える多くの共通の目的がある。

我々はパートナーに関心を持ち、共同行動に関与していかなくてはならない。そのために我々が変わらなくてはならないとしたら、それは過去の先入観や幻想を捨てることだ。もちろん一方

的に譲歩すべきと言っているのではない。意思の欠如と無能力によって我々は尊敬も感謝も利益も得ることはできない。このことはロシアの歴史においてすでに起こったことである。自分達が絶対間違っていないと妄信すること、そして幸福な西側諸国と永遠に低開発のロシアは受け入れられないし、それは敵対的で危険な状態である。危険だけでなく、敵対、孤立、相互の不侮辱と非難の応酬へつながる。

ノスタルジアで外交政策を考えてはならない。我々の長期的な戦略目標はロシアの近代化である。それによってロシアは世界をリードする経済的パワー、核保有国そして国連の安全保障理事会の恒久的なメンバーである。ロシアはオープンに明白にみずからの立場をあらゆる場で説明し、主張し、同調する圧力から逃げることも屈することもない。そして我々の利益が脅威に晒されるときには、断固としてそれを守り抜く。私はこの外交原則について昨年 8 月に述べた。

この西側との関係以外に、我々は EurAsEC（ユーラシア経済共同体）、CSTO（集団安全保障条約機構）、CIS（独立国家共同体）の国々との協力も促進しなくてはならない。これらの国々は最も近い戦略的パートナーである。これらの国々とは経済の近代化、地方の安全、そしてより平等な世界秩序という共通の目的がある。我々はまた、SCO（上海協力機構）のパートナーや BRICs 諸国との国際協力も進めなくてはならない。

あらゆる偉大な国民のようにロシア人は輝かしく英雄的な国民である。ロシアは世界の尊敬と憧憬を集めてきたが、同時に我々の歴史は議論が分かれる複雑で不透明なものだった。そのことは異なる国の異なる国民にはそれぞれ異なる事情があることを意味している。そして我々の歴史的遺産を歪曲と政治的思惑から守るためにしなくてはならないことが多く残っている。我々は過去の偉大な勝利、悲劇的な過ちしっかりと見つめ、我々の役割のモデル、そして国民性の最良の特徴を明示すべきだ。

いかなる場合でも、我々は自らの歴史を深く学び尊重する。何よりも我々は何世紀にも渡って世界のバランスの取れた秩序を維持するために果たしてきた我が国の役割に敬意を払う。ロシアはつねにあらゆる発展段階において公正な世界秩序の建設を追求してきた。

ロシアは常に隷属化や破壊の脅威に晒される小国の保護を迫ってきた。最近の例としてはサウジアラビア政権が南オセチアに対する犯罪的な攻撃を行った。ロシアはそのような国家主権を妨げようとする企みを打ち砕いてきた。ロシアは歴史上 2 度、偉大な連合の先駆者であった。1 回は 19 世紀のナポレオンの侵略を押しとどめ、もう 1 度は 20 世紀にナチを打ち破った。戦時であれ平時であれ、正義を守るために行動が必要なときには、ロシア国民はそこへ行き援助した。ロシアは戦時において常に信頼できる同盟国であり、経済・外交問題については正直なパートナーであった。

将来、ロシアは自由な国々からなる国際社会において行動的で尊敬されるメンバーとなる。ロシアは国際的な問題に関する意思決定について重要な影響力を行使することができる強大な国家

となる。ロシアの国家的利益を害し、内政問題に悪影響を与え、ロシア人の収入の水準を引き下げ、安全を脅かそうとする者による一方的な行動は断固阻止する。

これらの目的のために我々は他の国々とともに世界の超国家的・経済機関の改革を追求していく。この改革の目的は可能なかぎり多くの国と国民の利益となるよう国際関係を発展させることである。我々は、平等と公正という近代的概念を優先する協力のルールと議論のルール設定を求めていく。

これらは我が国の歴史的、そして将来における役割である。これらが我々に関わる問題に対する私の答えである。

8. 改革への協力を！

私の信念に共鳴する人々は是非協力して欲しい。また、私の考えに賛同できないものの真摯に改善も求める人々も同じように協力してもらいたい。未だに影響力を持つ汚職官僚のグループや何もしない「企業家」たちは身を隠すがよい。彼らは総てのものを手に入れ満足しただろう。彼らはソビエト産業の残余物から利益を搾り取り、我々皆のものであるはずの天然資源を浪費した。彼らは新しいものは何ひとつ作り出していないし何ひとつ開発していない。むしろそれを恐れている。未来はその者達のものではない、我々のものだ。我々が絶対多数なのだ。我々は忍耐強く、実利的に、着実に、そしてバランスを取りながら行動していく。そして今、今日も明日も戦い続ける。我々は危機と後進性、汚職を克服する。我々は新しいロシアを建設する。ロシアよ、進め！

以上